

非限定性名詞修飾的中日對照研究

—從狀態性的觀點分析—

徐 乃馨*

中文摘要

本研究以整理非限定性名詞修飾的中日對照關係為目的。從狀態性的觀點，以日語小說及其中文翻譯作為考察對象，進行分析。

分析結果指出，與日語非限定性名詞修飾對應的漢語表現，不僅有名詞修飾，還有表示轉折、因果、時間、條件、順接的各種複句和單句。另外，分析指出，日語中表示“屬性・狀態”的非限定性名詞修飾容易翻譯為漢語名詞修飾，日語中表示“過去・未來”的非限定性名詞修飾不易翻譯為漢語名詞修飾。

從分析結果本研究指出，對於漢語母語話者教授日語時，對於與漢語不對應、表示“過去・未來”的非限定性名詞修飾，有必要更加明確地進行指導。

關鍵詞：非限定性名詞修飾 狀態性 小說 翻譯 中日對照

* 日本首都大學東京大學院博士生

A Comparative Study of the Differences in Japanese and Chinese Nonrestrictive Noun Modification: Focusing on the State of Noun Modification

XU, Nai-Xin*

Abstract

This study aims to clarify the correspondence of nonrestrictive noun modifications between Japanese and Chinese. To this end, I analyzed a Japanese novel and the Chinese translation focusing on the state of noun modification.

The results showed that Chinese expressions corresponding to Japanese nonrestrictive noun modifications were found as noun modifications, as well as inverse nodes, causal clauses, time clauses, conditional clauses, covariance clauses, and simple sentences. Moreover, nonrestrictive noun modifications of "attribute state" in Japanese are easy to translate into nonrestrictive noun modifications in Chinese, but those nonrestrictive clauses of "past future" in Japanese are rarely translated into nonrestrictive noun modifications in Chinese.

From this, I concluded that it is necessary to strengthen the input of nonrestrictive noun modifications and to promote their output among Chinese learners of Japanese.

Key words : Nonrestrictive Clauses Stative expressions Novels Translation Japanese - Chinese Comparative Studies

* Ph.D. Student, Tokyo Metropolitan University.

非限定的名詞修飾の日中対照研究

—状態性の観点から—

徐 乃馨*

要旨

本研究は非限定的名詞修飾の日中対応関係を明らかにすることを目的とする。そこで、名詞修飾の状態性に着目し、日本語の小説とその中国語訳本をデータとして分析した。

その結果、日本語の非限定的名詞修飾が対応する中国語表現は、名詞修飾のほか、逆接節、原因節、時間節、条件節、等位節、単文などの表現があることがわかった。そして、日本語で「属性・状態」のものは中国語でも名詞修飾に訳されやすいが、「過去・未来」のものは中国語で名詞修飾に訳されにくいことが明らかになった。

このことから、中国語母語話者を対象に、中国語と対応しにくい「過去・未来」の非限定的名詞修飾についてより明示的な指導の必要性があることを指摘する。

キーワード：非限定的名詞修飾 状態性 小説 翻訳 日中対照

* 首都大学東京大学院生

非限定的名詞修飾の日中対照研究

—状態性の観点から—

徐 乃馨

1. はじめに

日本語の非限定的名詞修飾の習得について、中国語を母語とする学習者は非限定的名詞修飾が使用できていないと報告されている（増田 2001、2002、矢吹ソウ 2013、伊藤 2012）。その原因の一つに、学習者の母語である中国語の影響が考えられている（矢吹ソウ 2013）。

中国語母語話者が非限定的名詞修飾を使用しない理由として、中国語と日本語の情報付加的修飾節の使用傾向が異なることが考えられている（堀江・パルデシ 2009：61-73）。例えば、例 1a の日本語を中国語に訳すと例 1b になるが、それより、名詞修飾を使わず、節を並べた例 1c のほうが自然である。

- (1) a. それを聞いたおりひめとひこぼしは、また元の働きものにもどって、一生懸命働くようになりました。(j013)
- (1) b. 聽了天神的話的織女和牛郎又像從前一樣勤懇努力地幹活了。(天の神さまの話を聞いた織姫と彦星はまた元のように一生懸命働くようになりました。)
- (1) c. 聽了天神的話，織女和牛郎又像從前一樣勤懇努力地幹活了。(天の神さまの話を聞いて、織姫と彦星はまた元のように一生懸命働くようになりました。)

確かに、日本語の非限定的名詞修飾は中国語に訳す際、名詞修飾（「定语从句」）に訳されることが少なく（例 2b、孫 2016）、代わりに等位節（「等立句」、「反指主語零形小句」）に訳すことができる（例 2c、例 2d、孫 2014:65）。主語を前に置くタイプの等位節（「等立句」）で表す内容は背景的情報ではないが、「主語後置型等位節」（「反指主

語零形小句」) で表す内容は背景的情報である (方 2008)。

(2) a. (前略) …なにげなく玄関においた傘をお父さんはお客様に貸しました。お客様を見送って居間に戻ると、妻の友人が来ていて、こう会話しています。「あら、雨ね。かさは?」「もってきてあるわ。」この会話を聞いたお父さんは、真っ青になって別の傘をもって、お客様を追いました。

(増田 2000 : 54)

(2) b. ?爸爸順手把放在門口的雨傘借給了客人。爸爸送走了客人回到起居室。這時，妻子的朋友出來，妻子對她說：“啊呀，下雨了。你帶傘了沒有？”“帶了。”妻子的朋友答道。聽了二人的對話的爸爸頓時臉色變得鐵青，拿起另外一把傘追向剛才的客人。(孫 2014 : 63)

(2) c. 爸爸順手把放在門口的雨傘借給了客人。爸爸送走了客人回到起居室。這時，妻子的朋友出來，妻子對她說：“啊呀，下雨了。你帶傘了沒有？”“帶了。”妻子的朋友答道。爸爸聽了二人的對話頓時臉色變得鐵青，拿起另外一把傘追向剛才的客人。(等位節 (「等立句」)、孫 2014 : 63-64)

(2) d. 爸爸順手把放在門口的雨傘借給了客人。爸爸送走了客人回到起居室。這時，妻子的朋友出來，妻子對她說：“啊呀，下雨了。你帶傘了沒有？”“帶了。”妻子的朋友答道。聽了二人的對話，爸爸頓時臉色變得鐵青，拿起另外一把傘追向剛才的客人。(「主語後置型等位節」(「反指主語零形小句」) 孫 2014 : 65)

しかし、中国語の非限定的名詞修飾にも背景的情報の付加機能があるとされ、書き言葉で「主語後置型等位節」(「反指主語零形小句」) と並んで、情報の背景化の役割を担っている (方 2008)。実際、日本語の非限定的名詞修飾は中国語の非限定的名詞修飾に訳すことも可能である (例 3)。

(3) a. 省吾はまた、母の傍に居るお作を指さして、異母の妹で

あると話した。(作例)

(3) b. 省吾還指著站在母親身邊的阿作說, 那就是他的異母妹妹。

(作例)

では、日本語の非限定的名詞修飾はどのような場合、中国語の非限定的名詞修飾に訳されやすく、どのような場合、訳されにくいのだろうか。

2. 非限定的名詞修飾の日中対照研究

2.1. 日本語の非限定的名詞修飾

日本語の名詞修飾は限定的名詞修飾と非限定的名詞修飾に分けられる。限定的名詞修飾は被修飾名詞の指示しうる事物の集合の中から、指示対象を限定して取り出す機能を持つ(例4)。一方、非限定的名詞修飾は被修飾名詞についての補助的な情報を付け加える機能(情報付加機能)などを持つ¹(例5)。

(4) 絶滅の危機にある動物を救おう。(限定的名詞修飾)(日本語記述文法研究会 2008: 84)

(5) 図書館によく行く田中さんは非常に物知りだ。(非限定的名詞修飾)(庵ほか 2001: 386)

非限定的名詞修飾の情報付加機能は大きく、主節で表される事態に対する情報付加と、主名詞に対する情報付加に分けられる。主節の事態に対する情報付加には、「対比・逆接」「継起」「原因・理由」「付帯状況」の関係がある(例6、例7、例8、例9)。そのいずれも主節の出来事や動作が起こる背景的な情報を表している(庵ほか 2001: 389)。

(6) いつもは孫に甘い祖父が、そのときばかりは、きびしい声

¹ 情報付加機能以外にも、「述定的装定」(益岡 1995)、「眼前描写」(ソムキャット 2000)があると言われている。

(1) 修一は動揺する自分を感じながら言った。(「述定的装定」、益岡 1995: 144)

(2) 事故の知らせを聞いた太郎が、大声で泣いた。(「眼前描写」、ソムキャット 2000: 12)

- で、きっぱりと言った。(対比・逆接)(益岡 1995 : 140)
- (7) 控室に戻った私は、9分間、時間を過ぎたことを、係の人にわびた。(継起)(益岡 1995 : 141)
- (8) 最後のバスに乗り遅れた僕はしようがなく橋寺をうしろにして一人でてくてく歩きだしました。(原因・理由)(益岡 1995 : 141)
- (9) 「いいお天気だわあ。」と、門柱を軽く寄りかかるようにして空を見上げていた由美が言った。(付帯状況)(益岡 1995 : 142)

主名詞に対する情報付加は、名詞を文脈に導入するに当たって必要となる予備的、背景的情報を与えるものである。例 10 では、「婚約していた」という連体節で「大西明彦」と「私」の関係が示され、主名詞を円滑に文脈の中に持ち込み、文意を明瞭化している。

- (10) 「私、東京から来ました中川亜矢子と申します。実は、婚約していた大西明彦さんがここへ取材に来ていて、行方不明になったんです。」(益岡 1995 : 143)

このように、非限定的名詞修飾は談話において主節の出来事や主名詞導入のための背景的情報を表すことができる。また、非限定的名詞修飾を使うことにより、主節で表される本筋を明確にでき、主名詞がスムーズに文脈に導入できる(庵ほか 2001、山田 2004)。

2.2. 中国語の非限定的名詞修飾

中国語の名詞修飾も日本語同様、限定的名詞修飾(「限制性定语」「限制性关系从句」²⁾)と非限定的名詞修飾(「描写性定语」「描写性关系从句」)に分けられる。限定的名詞修飾は被修飾名詞指示範囲を限定し、同類のほかのものと区別するために用いられ、「どの N」に

² 「限制性定语」「描写性定语」は劉ほか(2010)の用語、「限制性关系从句」「描写性关系从句」は方(2008)の用語である。本研究では、それぞれ同じものであると考え、日本語では「限定的名詞修飾」「非限定的名詞修飾」で表す。

答えるものである（例 11）。一方、非限定的名詞修飾は同類のほかのものと区別するものではなく、「どのような N」を表すものである（例 12）。非限定的名詞修飾、特に複雑なものは、主に文学作品の叙述、描写で用いられ、会話や意見文ではめったに見ない（劉ほか 2010：469-474）。

(11) 這是哥哥給我的鉛筆。（限定的名詞修飾、劉ほか 2010：473）

（これはお兄さんからもらった鉛筆です。）

(12) 這時，對面走來一位穿紅衣服的姑娘。（非限定的名詞修飾、劉ほか 2010：473）

（その時、向こうから赤い服を着ている女の子が歩いてきました。）

非限定的名詞修飾の機能は情報付加であり、被修飾名詞の恒常的性質や被修飾名詞のある時点の状態³を表す（方 2008）（例 13、例 14）。

(13) 這些都是老張選擇嘉華的原因，動力、省油、內飾、配置、安全對於既要兼顧家庭又要兼顧事業的老張來說，是最適合不過了。（被修飾名詞の恒常的性質、方 2008:297）

（これらはみんな張さんが嘉華を選んだ理由です。エンジンのパワー、省エネ、内装、配置、安全は家庭と事業の両方に気を配らなければならない張さんにとって、一番良いのです。）

(14) 在後台見到付鱗然的時候，扎著兩個小辮，穿著背帶褲的她看上去並沒有想象中的成熟，反而頗有幾分我行我素的率真的味道。（被修飾名詞のある時点の状態、方 2008:297）
（樂屋で付鱗然さんに会った時、おさげを結んで、オーバーオールを着ていた彼女は想像したより大人っぽくなく、逆に我が道を行く素直な娘に見えた。）

³ 原文では、「核心名詞在某一時刻的動態特征」で表現しているが、例文を見て、「動き」ではないと判断し、「状態」に訳した。

2.3. 非限定的名詞修飾の日中対照研究

日中の非限定的名詞修飾の機能は類似しているようであるが、非限定的名詞修飾の使用が対応しないことが多い (Wang ほか 2009、孫 2014、2016)。

Wang ほか (2009)、孫 (2016) では量的調査を行い、非限定的名詞修飾の日中対応関係を観察している。

Wang ほか (2009) は日中パラレルコーパスを用いて、様々な年代作者の日中語の小説 (『キッチン』『こころ』とそれぞれの中国語訳本、《阿Q正伝》《活着》とそれぞれの日本語訳本) を対象に、「どのような場合に日本語の関係節が中国語で独立文としてコード化されやすいのか」を調査している。

その結果、中国語が日本語に翻訳される場合、ほとんど日本語でも名詞修飾になるのに対し、日本語を中国語に翻訳した場合、名詞修飾として訳されるのは半数以下であり、特に情報付加的修飾節と補足的修飾節においてこの傾向が著しいことが分かっている。つまり、限定的名詞修飾においては日中で対応することが多いが、情報付加的名詞修飾節と補足的修飾節においては、中国語では名詞修飾節が用いられることは少なく、独立した節を並列した構造のほうが自然に用いられる傾向にある (例 15)。

(15) a. 私のことばを聞いたお嬢さんは、おおかた K を軽蔑するとでも取ったのでしょうか。(堀江ほか 2009 : 68-69)

(15) b. 聽了我的話的小姐大概以為我看不起 K 吧。(堀江ほか 2009 : 69)

(私の話を聞いたお嬢さんは、おおかた私が K を軽蔑すると思ったでしょう。)

(15) c. 大概是小姐聽了我的話，以為我看不起 K 吧。(堀江ほか 2009 : 68-69)

(お嬢さんは私の話を聞いた。(その結果) おおかた私が K を軽蔑すると思ったでしょう。)

Wang ほか (2009) では、限定的名詞修飾と非限定的名詞修飾、および外の関係の対応について調査しているが、非限定的名詞修飾がどのような場合に中国語の名詞修飾に翻訳されやすく、どのような場合に名詞修飾に翻訳されにくいのかは不明である。

孫 (2016) では、中国語の回想録《魯迅與我七十年》とその日本語訳本『わが父魯迅』を用いて、日本語に訳されたヒトを表す人称代名詞、ヒトの名前に付加される非限定的名詞修飾の中国語原文は名詞修飾かどうかを調査している。分析方法として、日本語の非限定的名詞修飾をル形、テイル形、タ形、テイタ形に分け、それぞれの中国語原文が名詞修飾か否かを観察、集計した。その結果、日本語の非限定的名詞修飾に翻訳された中国語原文には、名詞修飾が 21.9% しかないこと、テイル形・テイタ形の非限定的名詞修飾の中国語原文には名詞修飾が 55.6%、ル形・タ形が 10.3% 占めることがわかったという。

しかし、孫 (2016) 自身も言及している通り、対訳できるものはテンス・アスペクト形式が違うが、主名詞の人物の置かれた状態・状況を表す点において共通している。つまり、テンス・アスペクト形式ではなく、名詞修飾の状態性が関わっている可能性があると考えられる。そして、ヒトを表す名詞のみを対象に調査が行われたため、結果が偏った一部の非限定的名詞修飾の傾向にすぎない可能性がある。

一方、孫 (2014) は量的調査ではなく、ウェブニュース、『五体不満足』、『こころ』、『雁の寺』、『金閣寺』とそれぞれの中国語訳本、『絶対隱私』とその日本語訳本からの例文を用い、名詞修飾と主節の「意味関係の緊密度」の観点から日本語の非限定的名詞修飾を分析し、中国語に翻訳できるかを考察し、主節との意味関係のつながりが強ければ強いほど、中国語に翻訳できなくなると考察している。具体的には、益岡 (1995) で言う述定的装定 (注 4)、逆接・対比 (例 6)、継起 (例 7)、原因・理由 (例 8) は名詞修飾と主節の「意味関

係の緊密度」が高く、中国語に訳されにくいのが、付帯状況（例 9）、主名詞に対する情報付加（例 10）が名詞修飾と主節の「意味関係の緊密度」が低く、訳されやすいとされている。例えば、例 16a は「付帯状況」とされ、主節との意味のつながりが弱いため、中国語では名詞修飾に訳すことができるとされている。しかし、例 16c のように、因果関係として考えることもでき、主節との意味のつながりが弱いとは言い切れない部分がある。実際、例 17⁴のように、原因・理由を表す名詞修飾でも、中国語では名詞修飾に翻訳できるものもある。

(16) a. キーパーが前に飛び出してきたところに、ゴール前で待っていた僕にコロコロとパスを出す。僕は、無人のゴールにボールを蹴り込めばよかった。（主節との意味のつながりが弱い、孫 2014 : 38）

(16) b. 對方守門員跳起撲球，早就等在球門一旁的我，突然接到夥伴們的傳球，抬腿射門，球應聲入網。（主節との意味のつながりが弱い、孫 2014 : 38）

(16) c. キーパーが前に飛び出してきたところに、僕はゴール前で待っていたので、僕にコロコロとパスを出す。僕は、無人のゴールにボールを蹴り込めばよかった。

(17) a. 兄とはもともと脳細胞の出来が違うキョウコには、難しい問題を分析するのは明らかに無理だった。

(17) b. 但是對腦結構與哥哥截然不同的京子來說，分析這些難題顯然是徒勞無功的。

また、例 18 は「逆接・対比」であるため、主節との意味のつながりが強く、中国語では名詞修飾に訳すと不自然になる（例 18b）とされている。しかし、例 19、例 20 のように、逆接・対比である名詞修飾でも、中国語では名詞修飾に訳せるものもある。

⁴ 例 17 の出典は本研究の調査データである『れんげ荘』とその中国語訳本であるため、省略する。以下の用例も同様に、本研究の調査データ『れんげ荘』及びその中国語訳本から採取したものは省略する。

- (18) a. 学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は、それを予期以上に喜んでくれる父の前に恐縮した。(主節との意味のつながりが強い、孫 2014:38)
- (18) b. ? 原先以為能夠在學校里畢業是一般人理所當然的事的我看到父親對我畢業高興得超過了我的預料。這使我在父親面前感到慚愧。(主節との意味のつながりが強い、孫 2014:39)
- (学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた私は、父がそれを予期以上に喜んでくれるのを見ました。それは私を父の前で恐縮させた。)
- (18) c. 我原先以為能夠在學校里畢業，是一般人理所當然的事。但是父親對我畢業高興得超過了我的預料。這使我在父親面前感到慚愧。(主節との意味のつながりが強い、孫 2014:39)
- (私は学校を卒業するのを普通の人間として当然のように考えていた。しかし、父は私の予期以上に喜んでくれた。それは私を父の前で恐縮させた。)
- (19) a. そのとき黙っていた母が、ぴしゃりといった。「やめなさい。行くんじゃない」
- (19) b. 一直默不吭聲的母親冷不防地冒出一句：“不要去，那不是你該去的地方。”
- (20) a. 別居していた兄一家が、母も七十歳近くになるので、同居を申し出たのだ。
- (20) b. 住在別處的哥哥一家人，因為母親年事已長（將近七十歳），提議要住在一起。

つまり、主節との「意味関係の緊密度」という観点からの考察は仮説として興味深いが、量的調査などで検証されているわけではない。えに、主節との「意味関係の緊密度」では説明できない翻訳もある。

このように、これまでの非限定的名詞修飾の日中対照の先行研究では、日本語の非限定的名詞修飾と中国語の対応関係が不明である。そして、日中対応関係を明らかにするために、状態性の観点を取り入れた意味・機能の観点が必要であると考えられる。

3. 研究課題

2章で述べた非限定的名詞修飾の日中対照の先行研究を踏まえ、本研究では中国語母語話者の日本語の非限定的名詞修飾の習得の要因解明の一助となるべく、以下の2点を明らかにする。

【研究課題 1】日本語の非限定的名詞修飾に対応する中国語表現は何か。特に、中国語で名詞修飾にならない場合、どのような表現が用いられるのか。

【研究課題 2】中国語で名詞修飾になる場合と、そうでない場合とで、日本語の非限定的名詞修飾に違いがあるのか。

4. 分析方法

4.1. 調査データ

本研究では、小説『れんげ荘』とその中国語訳本《蓮花荘》を対象に、日本語で非限定的名詞修飾を用いた箇所と、その中国語訳を調査する。『れんげ荘』は、キョウコはお愛想と夜更かしの日々から解放されるため、有名広告代理店を早期退職し、都内の古い安アパート「れんげ荘」に引っ越しし、月10万円で暮らす貯金生活者となり、様々な人と出会い、不便さと闘いながら、鳥の声や草の匂いを知り、丁寧に入れたお茶を飲む贅沢を知るといふ、ささやかな幸せを求める女性を描く長編小説である。

一作品一翻訳では、作者や訳者の表現の個人的傾向があることは否定できないが、本研究は非限定的名詞修飾の日中対照を目的としているため、調査結果に大きく影響するものではないと判断し、調査データとして用いることにする。

4.2. 非限定的名詞修飾の分類基準：状態性の観点から

2.3. でも述べたが、日本語の非限定的名詞修飾と中国語の名詞修飾の対応に、名詞修飾の状態性が関わっている可能性がある。これは、テンス・アスペクト形式による分類の限界と、意味・機能の観点からの分類の必要性を示唆している。

日本語の名詞修飾の習得研究では、名詞修飾の状態性が習得に関わるとされている。大関（2008）では、学習者が使用した連体節を属性性・状態性の高い順に「属性・状態」「習慣」「進行」「過去・未来」に分類している（表1）。

表1 修飾節の状態性（大関 2008：110 表 4-5）

属性・状態	習慣	進行	過去・未来
髪が長い人 着物を着た人 似ている人 役に立つ言葉	日本で働いている人	歩いている人	昨日買ったお菓子 友達にもらった本 昨日見た映画 明日行くところ
+状態性			-状態性

大関（2008）によると、左のものほど意味的に形容詞に近く、右のものほど特定時点の出来事や状態を表す修飾節になると述べている。自然習得者と教室習得者の発話を分析した結果、自然習得者には「形容詞に近い名詞修飾節から使われる」という習得段階が観察されたが、教室習得者には教科書の影響で、早い段階から「過去・未来」の修飾節が使われることが指摘されている。

この状態性による分類は従来のテンス・アスペクト形式による分類とは違い、名詞修飾が「属性的」であるか、「出来事的」であるかを捉えることができる。したがって、本研究では、大関（2008）の状態性の観点を援用し、日本語の非限定的名詞修飾の分類を行い、中国語の名詞修飾との対応関係に状態性の関与があるのかを考察す

る。

4.3. 手順と基準

まず、日本語の非限定的名詞修飾節を抽出する。抽出の基準は、「非限定」と「節」に分けて以下に述べる。まず、「非限定」の基準としては、名詞修飾を取り除いても、被修飾名詞が指示する内容の外延に変化がないこと、名詞修飾を、被修飾名詞を集合から取り出す条件と考えた場合、その条件を満たさない補集合が存在しないことである。例えば、例 21 では、「母」は主人公キョウコの母親であり、名詞修飾「きーきーとわめく」を取り除いても、被修飾名詞「母」の指示内容が変わらない。一方、例 22 の場合、「幼い子供を連れてきた」母親以外にも「幼い子供を連れていない」母親や「大きい子供を連れてきた」母親が補集合として考えられ、「幼い子供を連れてきた」は「母親」に対して限定的な機能を果たしているため、限定的名詞修飾である。

(21) きーきーとわめく 母をあわててアパートの部屋に引きずり込んだ。(非限定的名詞修飾)

(22) 幼い子供を連れてきた 母親にも見えない。(限定的名詞修飾)

次に、「節」の基準として、主に動詞（てきぱきと仕事を進める キョウコ）や、その否定形（まだ焼けていない 餅）、形容詞の過去形（苦手だった 春）、補語のある形容詞（毛の少ない 頭）を対象とする。そして、一つの被修飾名詞に対し、複数の名詞修飾がある場合、対象外の修飾が被修飾名詞に近い場合、便宜上、「対象外修飾部＋名詞」を「被修飾名詞」とする（バブルを経験した 会社の同僚の女性）。また、本研究では、単文に戻せる「内の関係」の名詞修飾節を対象にし、そのままでは単文に戻せないもの（部屋の隅のカビの取り跡を チェックしている 耳元で、「ぷい～ん」が聞こえてきた）を除外する。

続いて、日本語の非限定的名詞修飾を 4.2. で述べた状態性の観点で分類する。その例を以下にそれぞれ一例ずつ示す。

- (23) プライドが高い母にとっては、そう簡単には譲れない問題なのかもしれない。(属性・状態)
- (24) どうやら管理している不動産屋が定期的に掃除をしているようだ。(習慣)
- (25) 部屋の中でだらだらしているキョウコに比べて、クマガイさんは元気で、暑いのに体操をしたり、鼻歌交じりに洗濯物を干したりしていた。(進行)
- (26) 両親にそう言われたレイナは、「わかった。インターネットで調べてみる」と返事をした。(過去・未来)

また、日本語の非限定的名詞修飾に対応する中国語訳を抽出する。その際、明らかな誤訳（働いているお父さんの責任だから：上班工作是爸爸的責任）を除外する。

その後、中国語訳に対して分類を行う。まず、名詞修飾と非名詞修飾に分ける。次に、名詞修飾を「完全対応」と「非完全対応」に分け、非名詞修飾を表現によって分ける。

名詞修飾と非名詞修飾の基準は、日本語の修飾部に当たる部分が中国語でも修飾部になっているか、である。日本語の修飾部に当たる部分が修飾部になっている場合は名詞修飾（別居していた兄一家）：住在別處的哥哥一家人）に、そうでない場合は非名詞修飾（彼が見せてくれた図面）：房子的結構圖）に分類する。

そして、「完全対応」と「非完全対応」の基準は、被修飾名詞、修飾部、主節が完全に一致するか、である。完全に一致する場合は「完全対応」（彼は手にしたファイル）を元に戻し：他關上了手上的檔案夾）に、そうでない場合は「非完全対応」（玄関ともいえない狭い靴脱ぎ場）で、母は立ち尽くした：母親一直杵在那稱不上玄關的小地方）に分類する。

続いて、非名詞修飾を、翻訳された表現によって、大きく単文、他の複文、翻訳上の「不一致」に分ける。単文とは、日本語で名詞

修飾を使用しているところを、中国語訳では別の文に分けて翻訳されているものを指す（例 27）。

(27) a. 少しでも晴れるような気配はないかと、窓を開けたキョウコは、一瞬「ん？」と首を傾げた後、「きゃあ」と声を上げて、後ろに飛びのいた。

(27) b. 為了察看是否有放晴的跡象，京子打開窗戶。她遲疑了一下，然後發出尖叫，身子猛地後退。

(晴れるような気配はないかと、キョウコは窓を開けた。一瞬躊躇った後、「きゃあ」と声を上げて、後ろに飛びのいた。)

複文とは、日本語で名詞修飾を使用しているが、中国語訳では節に翻訳されているものを指す。ある事態が別の事態を引き起こすもので、仮定的な場合を条件節とする。事実的な場合は、順接は原因節に、逆接は逆接節に分類する。例 28 では、名詞修飾部「ドアを開けて入った」は「一・打開門進去」に翻訳されている。「一」は日本語の「と」に相当する中国語の条件表現のマーカであるため、条件節に分類する（分類の根拠を傍点で示す、以下同様）。

(28) a. ドアを開けて入ったキョウコは思わず息をのんだ。

(28) b. 京子一・打開門進去，不禁倒抽了一口氣。

(キョウコはドアを開けて入ると、思わず息をのんだ。)

ある事態の原因、理由を表すものを原因節とする（例 29）。

(29) a. 「親の介護をしている」自分には、近寄ってこないだろう。

(29) b. 因為自己說：“有父母要照顧”，他應該不會再來招惹吧？

(自分は「親の介護をしている」のだから、近寄ってこないだろう。)

2つの事態の間に予測された因果関係が実現しないことを表し、かつ事実的な場合は逆接節とする（例 30）。

(30) a. 最初は相槌を打っていたキョウコも、それがエンドレスで何度も繰り返されると、こちらの神経がおかしくなるような気がしてきた。

(30) b. 剛開始還會附和幾句，後來發現老是繞著同樣的話題，自己都快神經衰弱了。

(キョウコは最初は相槌を打っていたが、それがエンドレスで何度も繰り返されると、こちらの神経がおかしくなるような気がしてきた。)

主節の動きや状態が成立する時を別の事態との関係によって限定するのは時間節とする。例 31 では、「こういった電気製品を自分で買う必要がなかった」という事態は、「実家にいた」という事態が成立する時によって限定されるため、時間節とする⁵。

(31) a. 実家にいたキョウコは、こういった電気製品を自分で買う必要がなかったので、値段を知らなかったのだ。

(31) b. 在老家，自己根本不必採買電器製品，所以也不懂行情。

(キョウコは実家にいたころ、こういった電気製品を自分で買う必要がなかったので、値段を知らなかったのだ。)

主節と従属節は対等に近い関係を持つものは等位節とする(例 32)。

(32) a. 部屋に入ったキョウコはベッドに腰かけた。

(32) b. 京子進入房間，坐在床上。

(キョウコは部屋に入って、ベッドに腰かけた。)

単文と複文以外には、翻訳上での「不一致」を設け、修飾部の内容が欠けているもの(例 33)や、主節の内容が欠けているもの(例 34)などがある。

(33) a. 一人きりきーきーわめいていた母は、「今度はどこに勤

⁵ また、前文脈「小さな店が並ぶ商店街を歩いていて、オープントースターがあればと、激安の電気店に入ると、三千円で売られていたのにはびっくりした。経済的にはとてもありがたく、この値段でちょっとした料理も作れるのである。」とある。実家を出て一人暮らしを始めたキョウコは、商店街でオープントースターの安さに驚いた場面であるため、「実家にいた」はキョウコがいる場所を表しているのではなく、過去という時間を限定していることがわかる。

めているの」と聞いてきた。

(33) b. 母親再度逼問：“妳現在在哪裡工作？”

(~~一人きりきーきーわめいていた母は~~、「今度はどこに勤めているの」と聞いてきた。)

(34) a. ほかの住人がいないのを察知した不審者がやってくるのではないかとか

(34) b. 可疑的人會不會察覺到，這裡除了京子沒有其他的房客在？

(~~不審者がほかの住人がいないのを察知しているのか、やってくるのではないかとか~~)

5. 結果と考察

5.1. 日本語の非限定的名詞修飾—状態性分類別

日本語の非限定的名詞修飾を計 225 例抽出し、誤訳を除き 213 例を研究対象とした。状態性による分類の内訳は表 2 の通りである。

表 2 状態性分類別日本語の非限定的名詞修飾

属性・状態	習慣	進行	過去・未来	合計
115 (54.0%)	8 (3.8%)	17 (8.0%)	73 (34.3%)	213

日本語原文では、非限定的名詞修飾として、「属性・状態」が一番多く用いられ、全体の半分くらいを占める。次いで「過去・未来」が三分の一を占め、残りは「進行」と「習慣」である。

これはあくまで一小説における結果ではあるが、状態性による各分類の非限定的名詞修飾の使用割合が量的に明らかになった。

5.2. 対応する中国語訳—名詞修飾か否かとその下位分類

日本語の非限定的名詞修飾に対応する中国語訳は名詞修飾と非名詞修飾に、それぞれさらに分類を行い、表 3 にその内訳を示す。

表 3 日本語の非限定的名詞修飾に対応する中国語訳

名詞修飾か否か	下位分類	頻度
名詞修飾	完全対応	110
	非完全対応	32
非名詞修飾	等位節	20
	逆接節	6
	原因節	5
	条件節	4
	時間節	1
	単文	3
	不一致	32
合計		213

以下3つのことを取り立てて結果を述べ、考察を行う。

まず、日本語の非限定的名詞修飾の中国語訳が「完全対応」の割合が、110/213 (51.6%) である。これは先行研究と同じ結果といえる。つまり、日本語の非限定的名詞修飾には対応する中国語の名詞修飾は半分程度に止まり、完全に対応しない場合が多いといえよう。

では、なぜ中国語では日本語の非限定的名詞修飾には完全に対応しない場合が多いのだろうか。その理由の一つに、中国語はV0言語でありながら、修飾節前置型という特殊性があるからであると考えられる。一般的に、OV言語は修飾節前置型、VO言語は修飾節後置型であるとされている(劉 2016)。しかし、中国語はVO言語でありながら、修飾節前置型である。そのため、中国語では長い修飾節や、複雑な修飾節を避ける傾向にあり、名詞修飾よりも複文などで表現することが多いのではないだろうか。

次に、日本語の非限定的名詞修飾の中国語訳の「完全対応」に「非完全対応」を加え、名詞修飾になるものを合計すると、142/213 (66.7%) になる。つまり、実に日本語の非限定的名詞修飾のうち、

三分の二を中国語で名詞修飾に訳すことができるということである。名詞修飾に対応するのは半数以下しかないという先行研究の結果と照らし合わせると、割合が高いといえよう。

なぜ、本研究の結果と先行研究の結果に違いがあるのだろうか。その理由は2つ考えられる。まず、先行研究では、「完全対応」「非完全対応」の分類が行われていないため、名詞修飾と対応する基準が不明である。一方、本研究では、名詞修飾の中でさらに「被修飾名詞、修飾部、主節が完全に一致するか」という基準に基づき、「完全対応」「非完全対応」に分類している。つまり、対応の一致度という点で先行研究と本研究とでずれが生じる可能性がある。もう一つの理由は、本研究で対象にした作品と翻訳と、先行研究で扱う作品や翻訳との間に、作者や訳者に個人差があることである。

最後に、日本語の非限定的名詞修飾の中国語訳が名詞修飾にならないもの（非名詞修飾）の内訳をみると、先行研究で述べられている等位節が多くある一方、逆接節や条件節などを含む様々な他の複文や単文に訳されていることがわかる。また、不一致も多く存在する。特に、他の複文（逆接節、原因節、時間節、条件節、等位節）に訳されているものの合計は非名詞修飾の半分を占め（36/71、50.7%）、中国語で非限定的名詞修飾だけではなく、一定の割合で他の複文でも表現していることが窺える。

なぜ、日本語において非限定的名詞修飾で表現されるものは、中国語では名詞修飾以外の様々な複文でも表現されるのだろうか。日本語と中国語とで、主節と修飾節の意味関係の明示的提示の傾向が異なるからであると考えられる。日本語と中国語両方とも、被修飾名詞と修飾節との間に統語的制約のない帰属節タイプであるとされているが（大関 2008）、逆接、原因などの背景情報を提示するのに、日本語では非限定的名詞修飾で提示する傾向があるのに対し、中国語では逆接節、原因節など、接続表現を用いてより明示的に提示する傾向があるのではないだろうか。

5.3. 中国語訳の分類と日本語の非限定的名詞修飾の状態性の関連

異なる中国語訳別に、原文の日本語の非限定的名詞修飾を状態性の観点で分類し、集計したものを表4に示す。

表4 中国語訳別日本語の非限定的名詞修飾の状態性分類

分類		属性・ 状態	習慣	進行	過去・ 未来	合計	
名詞 修飾	完全対応	68	3	7	32	110	
	非完全対応	23	1	2	6	32	
非名 詞修 飾	他 の 複 文	等位節	7	0	2	11	20
		逆接節	1	1	0	4	6
		原因節	2	1	0	2	5
		条件節	0	0	0	4	4
		時間節	0	0	0	1	1
	単文	0	0	0	1	3	
	不一致	13	2	5	12	32	
合計		115	8	17	73	213	

表4から、名詞修飾に訳された日本語の非限定的名詞修飾には「属性・状態」が一番多いのに対し、非名詞修飾に訳された日本語の非限定的名詞修飾には「過去・未来」が一番多いことがわかる。

日本語の非限定的名詞修飾の状態性分類により、中国語訳が名詞修飾になるか否かに違いがあるかを調べるため、フィッシャーの正確検定を行った結果、日本語の非限定的名詞修飾における状態性の分類によって、中国語訳（名詞修飾・非名詞修飾）の間で有意差が見られた（ $p < .01$ ）（表5）。日本語の非限定的名詞修飾の状態性分類のうち、どこで差が出たかを見るため、多重比較を行い、有意水準調整のため、ボンフェローニの補正を行った。その結果、「属性・状態」と「過去・未来」の間にのみ有意差があることがわかった（

$p < .0016$) (表 6)。

表 5 中国語訳と日本語の状態性による分類のクロス表 1

		状態性による分類				合計
		属性・状態	習慣	進行	過去・未来	
名詞修飾 か否か	名詞修飾	91	4	9	38	142
	非名詞修飾	24	4	8	35	71
合計		115	8	17	73	213

表 6 中国語訳と日本語の状態性による分類のクロス表 2

		状態性による分類		合計
		属性・状態	過去・未来	
名詞修飾か否か	名詞修飾	91▲	38▼	129
	非名詞修飾	24▼	35▲	59
合計		115	73	188

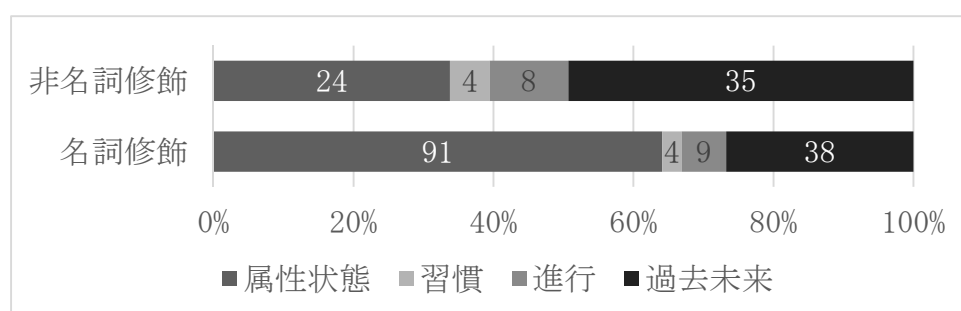


図 1 日本語の非限定的名詞修飾の状態性分類

図 1 に表 5 の用例数の割合を名詞修飾と非名詞修飾別に示す。図 1 から、日本語の非限定的名詞修飾における状態性の分類によって、中国語訳が名詞修飾になるか否かに偏りがあるということがわかる。つまり、日本語で「属性・状態」のものは中国語でも名詞修飾に訳されやすいが、「過去・未来」のものは中国語では名詞修飾に訳され

にくいということである。

では、なぜ、日本語で「属性・状態」のものは中国語でも名詞修飾に訳されやすく、「過去・未来」のものは中国語で名詞修飾に訳されにくいのだろうか。「過去・未来」を表す非限定的名詞修飾は主節の出来事と時間軸を関連付けながら、背景的情報を付加している。一方、「属性・状態」を表す非限定的名詞修飾は主節事態と時間的關係を持たずに、背景的情報を付加している。つまり、同じ主節事態の背景的情報の付加機能とはいえ、「過去・未来」を表すものと「属性・状態」を表すものの背景化の程度に差があると考えられる。日本語では主節事態と時間的に前後する事態を非限定的名詞修飾で表現することが可能であり、主節事態が前景に、名詞修飾で表す事態が背景になっているが、一連の出来事を表すことができる。一方、中国語では、一連の出来事を部分的に背景化することが望ましくなく、一連の出来事を背景化せずに、等位節などで表現する傾向にあるのではないだろうか。これは「過去・未来」の名詞修飾が中国語に訳されにくい原因であると考えられる。そして、中国語では、日本語と同じように、主節と連動しない内容を名詞修飾で表すことが可能である。そのため、「属性・状態」を表す名詞修飾は中国語に訳されやすいといえる。

孫（2016）では、中国語の名詞修飾に対応する割合について、タ形の非限定的名詞修飾が一番低く（4.5%）、テイタ形の非限定的名詞修飾が一番高い（54.2%）という結果を得ており、中国語の名詞修飾は日本語のテイタ形の非限定的名詞修飾に「馴染みやすい」と推測している。一方、伊藤（2012）では、日本語母語話者は最も多く使用した連体節がタ形であるのに対し、中国語を母語とする学習者は最も多く使用したのはテイル形であるとしている。中国語を母語とする学習者にとって、タ形の使用が難しい可能性を示唆している。

これらの結果と照らし合わせて考えると、テイタ形やテイル形は、中国語でも名詞修飾に訳されやすい「属性・状態」の非限定的名詞

修飾を表すことが多いため、中国語を母語とする学習者にとって習得しやすいのではないだろうか。

その一方で、夕形は、中国語で名詞修飾に訳されにくい「過去・未来」の非限定的名詞修飾を表すことが多いため、中国語を母語とする日本語学習者にとって習得が難しく、使用に至るのに時間がかかるのではないだろうか。

6. まとめ、教育への示唆

本研究は日本語の小説とその中国語訳本を通して、非限定的名詞修飾の日中対応関係について調査した結果、日本語の非限定的名詞修飾が対応する中国語表現は、名詞修飾のほか、逆接節、原因節、時間節、条件節、等位節、単文などの表現があることが明らかになった。そして、日本語で「属性・状態」のものは中国語でも名詞修飾に訳されやすいが、「過去・未来」のものは中国語で名詞修飾に訳されにくいことが明らかになった。

そこで、本研究の意義は主に2点あると考える。まず、先行研究では、日本語の非限定的名詞修飾に対応する中国語が名詞修飾や等位節であることはわかっていたが、本研究では、それ以外にも中国語の様々な複文に対応することを明らかにした点である。

次に、本研究では従来形式による分類ではなく、状態性の観点から日本語の非限定的名詞修飾を分類し、状態性の違いによって中国語で名詞修飾に対応する傾向が異なることを明らかにした点である。「属性・状態」のものは中国語でも名詞修飾に訳されやすいが、「過去・未来」のものは中国語で名詞修飾に訳されにくいという偏りは、中国語を母語とする学習者が日本語で「過去・未来」の名詞修飾の使用の少なさに関連があると考えられる。2.1.でも述べたが、日本語では、出来事の描写やメカニズムを記述する際、「過去・未来」の非限定的名詞修飾を使用することで、コンパクトにまとめられ、背景情報を非限定的名詞修飾で提示することによって、本筋を明確

にできるという効果がある。「過去・未来」の非限定的名詞修飾を適切に使用できないと、読み手にとって唐突に感じさせ、文意が不明になるなどのリスクがある。そうならないために、中国語を母語とする学習者を対象に、中国語と対応しにくい「過去・未来」の非限定的名詞修飾のインプットの強化と産出の促進が必要だと考える。

7. 今後の課題

本研究では、一作品一翻訳を用いて調査を行ったが、作者や訳者の個人的な習慣に左右されやすいため、今後、一作品に対し複数の翻訳があるものや、複数の作品を対象として調査を行い、本研究の結果と合わせて更に考察を深めていきたい。

そして、本研究では、状態性の観点の分類による中国語訳の偏りを発見することができたが、より具体的な影響要因を突き止めることができなかつたため、今後さらなる分析が求められる。

用例出典

群ようこ（2011）『れんげ荘』、東京：ハルキ文庫。

群陽子著、林馥如訳（2015）《蓮花荘》、新北市：楓書坊文化。

参考文献

方梅（2008）《由背景化觸發的兩種句法結構——主語零形反指和描寫性關係從句》《中國語文》4（325）、北京：中國社會科學院語言研究所、291-303

孫海英（2014）《日語語法專題研究》、廣州：世界圖書出版廣東有限公司

張秋杭（2014）《關係從句的語篇功能研究》、上海：上海外國語大學博士論文

劉月華、潘文娛、故韡（2010）《實用現代漢語語法（增訂本）》、北京：商務印書館

庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘（2001）『中上級を教える

- 人のための日本語文法ハンドブック』、東京：スリーエーネットワーク
ワーク
- 伊藤絵梨子（2012）「談話データから見る連体修飾節の使用実態—初級日本語教科書との比較から—」『葛野』16、京都：京都外国語大学、42-61
- 大関浩美（2012）『第一・第二言語における日本語名詞修飾節の習得過程』、東京：くろしお出版
- ソムキャット・チャウエンギジワニッシュ（2000）「『非限定』の連体修飾節に関する一考察—『眼前描写』の連体修飾節について—」『日本語科学』7、東京：国立国語研究所『日本語科学』編集委員会、7-22
- 孫海英（2016）「非制限的連体修飾節の中日対照研究—《鲁迅与我七十年》とその訳本『わが父鲁迅』との対訳を通して—」『研究会報告』40、東京：大東文化大学日本語文法研究会、156-169.
- 日本語記述文法研究会（2008）『現代日本語文法6 第11部 複文』、東京：くろしお出版
- 堀江薫、プラシャント・パルデシ（2009）『言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—』、東京：研究社
- 益岡隆志（1995）「連体節の表現と主名詞の主題性」、益岡隆志、野田尚史、沼田善子『日本語の主題と取り立て』、東京：くろしお出版、139-153
- 増田真理子（2000）「談話展開に関わる接続形式と、それに代わる連体修飾節の使用について—日本語学習者と母語話者が産出したテキストの比較から—」『日本語教育学会春季大会予稿集』、東京：日本語教育学会、51-56
- 増田真理子（2001）「〈談話展開型連体節〉『怒った親は子どもをしかった』という言い方」『日本語教育』109、東京：日本語教育学会、50-59
- 増田真理子（2002）「学習者はどのような連体修飾節を使っているか

- 日本語学習者が産出したテキストの分析から—」『多摩留学生センター教育研究論集』3、東京：電気通信大学・東京学芸大学・東京農工大学、43-50
- 矢吹ソウ典子（2013）「日本語学習者・母語話者によるストーリーテリングでの連体修飾節の用法」『言語文化と日本語教育』4、東京：お茶の水女子大学日本言語文化学会、1-10
- 山田敏弘（2004）「非限定的名詞修飾の機能」『岐阜大学 国語国文学』31、岐阜：岐阜大学、1-13
- 劉丹青著、山田留里子、木村裕章、植田均、地蔵堂貞二、伊井健一郎、秋山淳、賀南、石曉軍、長野由季訳（2016）『中国語名詞性フレーズの類型学的研究』、大阪：日中言語文化出版社
- Wang Luming, Kaoru Horie, and Prashant Pardeshi（2009）, “Toward a Functional Typology of Noun Modifying Constructions in Japanese and Chinese: A corpus-Based Account.”, In: Shunji Inagai et al.(eds.) *Studies in Language Sciences*, 8, Tokyo, Kuroshio Publishers, 213-228.